

～目次～

【1】TKK活動

- ・東京都に要望書提出
- ・ZOOM ウェビナー 実践的アプローチ講習会 開催に向けて
- ・2021年度 TKK 主催:医療及び家族相談会 案内

【2】加盟団体の活動

- ・「サークルエコー」活動 案内

【3】行政、他団体の活動

- ・高次脳機能障害、発達障害のある子どもの理解 ～子供と家族を支える対応とは？～
- ・NPO 法人日本高次脳機能障害友の会オンライン全国大会
- ・＜WEB 講演会＞令和3年度区東部圏域高次脳事業支援普及事業
- ・高次脳機能障がいセミナー 「高次脳機能障害とともに歩む」
- ・港区高次脳機能障害理解促進事業 講演会～小児の高次脳機能障害を取り巻く生活課題～
- ・失語症サロンのご案内 令和3年度東京都委託事業(モデル事業)

・東京都への予算要望書

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の案内 表題の< >はシリーズ開催です —

【1】TKK活動

* *

<東京都に要望書提出>

8月13日に小池百合子東京都知事に要望書を提出いたしました。これに関する都のヒアリングは、新型コロナ緊急事態宣言解除後の10月中旬以降の予定です。(要望書は巻末に掲載)

==== 都提出と同時に、東京都議会の政党・会派に要望書を提出していましたが、9月8日(水)、宣言下にもかかわらず徹底的な感染予防の工夫のもと、全ての政党・会派が私たちTKKの要望を熱心にヒアリングしてくださいましたこと、及びご助力に感謝申し上げます。==== 理事長 細見 みゑ

<ZOOM ウェビナー 実践的アプローチ講習会> 日本損害保険協会助成リハビリテーション講習会事業

第1回 2021年11月7日(日) 講師/テーマ - **第1回の申し込みは既に締め切りました。**

- ・ 渡邊 修氏 (東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科診療部長)
[高次脳機能障害のある方の運転再開をどのように支援するか]
- ・ 瀧澤 学氏 (神奈川県リハ病院総合相談室総括主査、神奈川県リハ支援センター高次脳機能障害室主査)
[重度の高次脳機能障害のある方に対するソーシャルワークの考え方]
- ・ 小島 秀人氏 (調布市 福祉健康部 障害福祉課 サービス支援係)
[高次脳機能障害者支援法制定へ向けて]

第2回 2022年1月23日(日) **申し込み期間: 11月24日(水)10:00~12月8日(水)17:00**

- ・ 上田 敬太氏 (京都光華女子大学 健康科学部教授、医師)
[原因から考える社会的行動障害]
- ・ 大嶋 伸雄氏 (東京都立大学大学院教授)
[高次脳機能障害者への認知行動療法 + カウンセリングを用いた生活行為向上アプローチ]
- ・ 山口 加代子氏 (中央大学大学院講師、明治学院大学講師、公認心理師)
[高次脳機能障害のある方への心理的対応~事例を踏まえて]

詳しくは: http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=246

=====
本講習会は、一般社団法人日本損害保険協会の助成と東京都高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会及び講師・座長の方々、東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科、TKKスタッフにより、全国オンラインで開催いたします。皆様に周知し受講を募ったところ、第1回はわずか2週間で全国400人近くの方々から申込みを頂きました。当障害に対する理解をより深め、適切な支援技術を高めようとする皆様の熱意に、心から敬意を表し感謝申し上げます。第2回は2022年1月23日(日)に開催予定です。こちら是非ともお申込みいただきますよう、お願い申し上げます。
=====
理事長 細見 みゑ

<2021年度 TKK主催:医療及び家族相談会> 各日とも13:30~16:30

- ・2021年11/21(日)
【会場B】東京都心身障害者福祉センター 東京都飯田橋庁舎 12階高次脳機能障害支援室(研修室)
(新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 12階)
- ・2022年1月18日(日)、2月13日
【会場A】東京慈恵会医科大学附属第三病院 2階会議室 (東京都狛江市本町 4-11-1)

申し込み方法など詳しくは: http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=243

【2】加盟団体等の活動

* *

○サークルエコー 玉木和彦代表から

==== 昨年 10 月より毎月開催してまいりました家族会(サークルエコー)と支援者の意見交換の場「オンライントークイベント」は、先日「まとめレポート～夢を紡ぐ～」を発表して終了いたしました。今後は、障害当事者・家族の社会的孤立の回避を目的とした「研究タスクチーム」を作り、さらなる活動の深耕をはかってまいります。今後とも、ご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

レポートは、サークルエコーホームページ(<http://circle-ecoh.com>)および国リハのホームページの高次脳機能障害関連情報のガイド・マニュアルにおいても案内されています。

【3】行政、他団体の活動

* *

●小児の高次脳機能障害に関する研修会【教育・医療・福祉関係者対象】

高次脳機能障害、発達障害のある子どもの理解 ～子供と家族を支える対応とは？～

主催：東京都心身障害者センター 8/20～8/29 WEB 配信

・講演「小児期の高次脳機能障害と発達障害の理解と対応」

講師：神奈川県リハビリテーション病院小児科部長 吉橋 学 氏

・講演「ご家族の経験から学ぶ」

講師：ハイリハキッズ代表 中村 千穂 氏、ハイリハキッズ会員の御家族、教育関係者

※本研修は、小児期の相談、教育等に携わる関係者が高次脳機能障害の基礎知識、対応方法、家族支援等についての理解を深める内容で、対象は教育関係：小・中学校、高等学校、特別支援学校、教育相談所(室)の教職員、スクールカウンセラー、特別支援教育支援員等、

区市町村：区保健所、区市町村保健センター、子供家庭支援センター等、医療機関：急性期や回復期等の医療関係者、OT、PT、ST 等の専門職等。

定員は教育関係者 300 名、医療・福祉等関係者 200 名であったが、申し込み開始早々に定員に達しました。

==== 吉橋 学先生のお話で一番興味深かったのは「脳の可塑性」についてです。てんかんを発症すると、「悪い可塑性」を引き起こす場合もあるとのこと。息子は難治てんかんがあるので、もっと早く聞きたかった・・・と思いました。

私はハイリハキッズの活動紹介と家族支援の重要性についてお話をしました。家族会からはハイリハキッズの家族 A さんに登壇いただきました。私、A さん、A さんの先生の 3 人でパネルディスカッションを行いました。A さんの「退院前に医師から今後高次脳機能障害がみられるかもしれないと伝えてほしかった」という思いに共感しました。また、学校で関係者会議を行ってもらい、その後から学校、医療、家庭で連携支援がすすむようになって本当に良かったと話してくださいました。A さんの関係者会議の後に定例会へ参加された時の晴れやかな笑顔、その後の前向きに努力する姿を思い出し胸が熱くなりました。次年度もぜひ研修会を行っていただきたいです。

==== TKK 理事 中村 千穂

●NPO 法人日本高次脳機能障害友の会オンライン全国大会

主催: 日本高次脳機能障害友の会 10/2 ZOOM ウェビナー

第1部 シンポジウム「高次脳機能障害支援法制定に向けて」(講師/講演テーマ)

・深津玲子 氏 (国リハ 高次脳機能障害情報・支援センター長)

: 高次脳機能障害支援の体制作りとこれから

・渡邊 修 氏 (慈恵医科大学第三病院リハビリテーション科教授)

: 医療の現状と展望

・鈴木智敦 氏 (名古屋リハ副センター長)

: 支援機関の現状と展望

・片岡保憲 氏 (日本高次脳機能障害友の会理事長)

: 患者・家族の現状と展望

・中村千穂 氏 (高次脳機能障害の子どもをもつ家族の会ハイリハキッズ代表)

: 小児高次脳機能障害の現状と展望

第2部 各地の家族会 活動紹介

====シンポジウムでの各講演およびコーディネーター、神奈リハの瀧澤氏からの支援法制定に向けてのコメントは、これまでの支援の経過、現在の支援体制の現状、評価/課題がしっかり整理されて述べられました。その結果、支援の制度化、法制化、高次脳機能障害支援法制定に向けての大きな示唆が示された有意義な内容でした。

==== TKK 理事 矢野 久喜

====第1部のシンポジウムのテーマは、「高次脳機能障害支援法制定に向けて」でした。

私の場合、娘が受傷してから 20 数年が経過致しました。これからの我が子の将来を考える時、このテーマが、現在の我が家の最大の関心事ともなっています。

当事者家族の片岡氏や中村氏が、高次脳機能障害という言葉が社会に知られていない。他の障害種別には無い障害特性として①ほんの少し良くなるまでに年月がかかり過ぎる(支援の時間軸)、②中途障害なるが故に生じる脳の可塑性が見えにくい問題、③記憶、④神経の疲労などを挙げられました。そして、家族からの切実な声として、今までの障害者支援とは異次元の考え方で取り組んでほしい、との要望になりました。高次脳機能障害支援法が成立すれば、裁量的経費であったものが、義務的経費となり、予算の安定化に繋げる効果が得られます。また、高次脳機能障害全体を包括できる制度にするには、親子・夫婦の関係、人数の多少などの別なく、高次脳機能障害に関わるどの立場の方をも包含する、つまり最大公約数をまとめるようにすることが最も大事なことだと考えます。

最後に、「当事者や家族の真剣な想いこそが国を動かすのです。」

==== TKK 理事 伊地山 敏

なお本大会の録画は友の会 HP から視聴可能になっており、2021 年 10 月 23 日(土)までオンラインで配信されます。

配信 URL : <https://npo-biaj.sakura.ne.jp/top/top/2021/10/08/youtube/>

○<WEB 講演会>令和3年度区東部圏域高次脳事業支援普及事業

「脳画像に基づいた ポジティブな行動支援」

講師: 梶間 剛氏 (医師・一般社団法人 iADL 代表理事)

主催 : 東京都リハビリテーション病院 医療福祉連携室 リハビリテーション推進課

日時 : 10/22(金) 18:30~20:00(受付開始 18:00~)

WEB 講演

対象 : PT・OT・ST・看護師・ケアマネージャー・地域包括・医療 福祉介護スタッフ等

◇お申し込み

受付期間 : 9/10(金)~10/15(金)迄 定員: :80 名 無料

申込み先 : 下記 URL もしくは QR コードよりお申し込み下さい。

URL : <https://forms.gle/CqjSazrTDwPLabpR6>

※定員になり次第、締め切ります。(定員を超えてしまい、ご受講できない場合のみ、その旨連絡いたします。)

○高次脳機能障がいセミナー

「高次脳機能障害とともに歩む」～高次脳機能障がいとは？ できるだけわかりやすく～

講師 : 羽田拓也氏 (医師、東京慈恵会医科大学附属リハビリテーション科)

主催 : NPO 法人足立さくら会 高次脳機能障害ネットワーク事務所

日時 : 11/6(土)14:00~16:00

会場 : 障がい福祉センターあしすと 5 階ホール

◇お申し込み

受付期間 : 10/11(月)~10/29(金) 定員 : 30 名 無料

申込み先 : 電話・ファックス 03-5888-7669 メール・adatisakurakai@yahoo.co.jp

手話通訳・要約筆記も 10/29(金)までにお申込みください。

(新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります)

○港区高次脳機能障害理解促進事業 講演会

<小児の高次脳機能障害を取り巻く生活課題>

講師 : 岩崎也生子(いわさきやおこ)氏 (杏林大学 保健学部作業療法学科 准教授)

主催 : 港区立障害保健福祉センター 共催 : 港区

日時 : 11/28(日)13:30~15:30

会場 : 港区立障害保健福祉センター 6 階 多目的体育室

対象 : 高次脳機能障害当事者や家族・支援者及び関心のある方

内容 : 高次脳機能障害の子どもの実態調査から、日常生活や学校生活場面で観察される特徴についてと、成人の高次脳機能障害者や自閉症などの発達障害との違いについても触れていきます。

◇お申し込み

50 名(申込み順) ※手話通訳あり、一時保育(先着 2 名)

無料

受付期間 : 10/22(金)~11/25(木)AM9:00~PM5:00(初日のみ PM2:00~)

申込み先: 電話・03-5472-3710(みなとコール) FAX・03-5439-2514(港区立障害保健福祉センター)

詳しくは http://www.brain-tkk.com/index/show_board.php?boardAct=view&readNum=235

○令和 3 年度東京都委託事業(モデル事業)

失語症サロンのご案内 ~会話を支援者がサポートします~

中央区サロン ・10 月から 日時 : 毎月第 2 日曜 13:30~15:00

会場 : 聖路加臨床学術センター 最寄駅 : 日比

谷線・築地駅から徒歩 3 分または有楽町線・新富町駅から徒歩 5 分

小金井サロン ・10月から 日時：毎月第3土曜 13:30～15:00 会場：日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 最寄駅：中央線東小金井駅から徒歩1分

内容：失語症のある人が集まって、少人数で会話を楽します。自信がなくても大丈夫！！東京都が養成した失語症者向け意思疎通支援者がサポートします！

東京都在住で、身体障害者手帳を持っている失語症のある人。重症度は問いません。送迎はありません。

☆まずは言語聴覚士に相談してください。

参加費：無料

参加までの手順：①申し込み ②面談 ③体験 ④登録

各サロンの参加定員：12名

◇ 申込み・問い合わせ 〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 中野サンプラザ9階

(一社)東京都言語聴覚士会 意思疎通支援モデル事業担当(行)

電話：080-7016-0292 Eメール：salon-ishisotsu@st-toshikai.org

・東京都への予算要望書

令和3年8月13日

東京都知事

小池 百合子 殿

特定非営利活動法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)

理事長 細見 みゑ 印

緊急及び予算要望書

新型コロナウイルスの感染は、オリンピック・パラリンピック開催の中、拡大の一途をたどり、先行きの見えない状態が続いています。その中での東京都のご苦勞は、並大抵ではないものと、そのご尽力に心から感謝申し上げます。

コロナ禍で世の中の状況が一変し、「新しい生き方」が求められています。高次脳機能障害者や家族たちもそれなりの生活の変化を余儀なくされている中、環境の変化への対応が難しい障害ゆえに人一倍戸惑いや不安、体調不良などを抱えながらも、何とか生活を維持しています。また、日頃支え合っている家族会や当事者会の懇談会等の開催もほとんどが中止をせざるを得ない状況です。

国民がみな苦しい状況の中、多くの人たちへの支援が必要な時ではありますが、私たち高次脳機能障害者や家族が少しでも安心して生活が出来るよう、本年度(令和3年度)施策に対する緊急要望、及び次年度(令和4年度)予算に対する要望をいたします。

1. 新型コロナウイルス・ワクチン接種について

ワクチン接種を進めている現状ですが、高次脳機能障害者の接種の優先順位を上げてください。障害者に対して既に独自の配慮をしている自治体もあるようですが、地域差が無く早い時期に接種券が届くように、東京都として配慮してください。

【要望理由】

過去に重い病気や事故を経験し障害が残っていても、「現在基礎疾患のある方」には該当しません。しかし感染すれば、高次脳機能障害の影響でより重症化しやすくなると考えます。

更に、脳卒中に起因する高次脳機能障害であれば、介護保険2号被保険者として高齢者施設を利用することがあり、当然そこでは1号被保険者の高齢者との接触があります。その為、高齢者や施設の従事者と同じように早期に予防することが感染拡大防止に有効と考えます。

また、接種券が届いても自身で予約し接種会場へ出掛け、既往症や服薬状況などの説明が正確にきかない当事者が大多数であり、介助者が必要です。この度のワクチンのように副反応が出た時に備えると、介助者である家族との同時接種は避けたく、ワクチン接種券が早期に届いていれば当事者だけでも早目の接種が可能になります。

2. 高次脳機能障害者の家族が新型コロナに罹患した場合について

介護者が感染した場合、当事者の保護を支援してください。また罹患した家族の入院を優先するよう東京都から区市町村へ緊急時の支援の実施を要請してください。

【要望理由】

現在、コロナはインド由来のデルタ株が感染拡大の要因と分析されています。従来にも増して感染にスピードがあり、収束の目途が立たない現状です。当事者が罹患して回復したが、親が感染し、入院したいが当事者を預ける場所を探しているうちに悪化、入院したものの亡くなられた方がいました。コロナの治療は初期段階が重要と聞いています。すぐに入院できれば助かっていたかもしれない事例です。

昨年度も要望の中で、杉並区の例（廃園になった保育園を利用し、2週間の保護を実行してくれる）を挙げ、当事者を保護してくれる対応をお願いしました。医療機関が切迫している今、罹患者が簡単に入院できない事実はありますが、日々介護をしている家族にとっては切実な問題です。また、入院に至らず自宅療養の場合でも、罹患した家族が当事者に接触することなく、各々の生活を営むには無理があります。

3. 都心身障害者福祉センターの支援事業について

東京都における支援拠点である東京都心身障害者福祉センター（以下、都身障）が実施する高次脳機能障害者の社会参加のための「就労準備支援プログラム」と「社会生活評価プログラム」の一日も早い再開を切に希望します。今後の見通しをお示しください。

【要望理由】

現在、昨年度からコロナを理由に上記2事業が中止になっています。人数制限や時間差などという工夫の中での再開があるのではないかと考えて待ち望んでいます。

コロナ禍であっても、高次脳機能障害のある方々は「新しい生き方」に向かって日々努力しています。都身障のこれらの事業は、社会参加のために一步を踏み出そうとしている者にとって大変重要な支援であり、東京都の支援拠点である都身障の役割として必要不可欠な事業であると思います。

4. 東京都区市町村高次脳機能障害者支援促進事業について

東京都が平成19年度（2009年度）から実施している東京都区市町村高次脳機能障害者支援促進事業の一層の充実を図ってください。

【要望理由】

東京は、障害者相談支援事業の内容の充実と普及を目指して、標記の促進事業を鋭意推進され、その受託自治体は島しょを除くほぼ全域に普及してきました。

区は財政的な問題は少ないと感じますが、多摩地域の市区町村は、財政規模も小さく、相談事業や普及啓発事業、高次脳機能障害事業所連絡会等は自治体の障害者支援担当の方々が、その予算の範囲で高次脳機能障害分野が追加されたといった受け止めのところもあり、講演会や相談件数、関係事業所連絡会などの実施回数は少数にとどまっているところがあります。NPO 法人など民間への委託事業として高次脳機能障害者支援を実施している事例と比較してみると、必ずしも専門分野の職員の配置とはなっていないようです。

私たちは、この100人100様の生活の困難を抱えた当事者や家族への相談対応や支援をもっと充実させ地域自治体に根付かせるためには、専門職がきちんと向かい合えるような相談窓口や、そのための研修などが必要と考えます。多摩地域から都身障には2時間近くかかる地域もあり、多摩支所も含めた高次脳機能障害者の支援拠点としての機能を高め、自治体への支援促進事業の一層の充実と強化をお願いします。

以上